

伝える大震災、つながる防災

災害メモリアルアクションKOBЕ

ACTION 2023

KOBЕのことば

参加無料

※新型コロナウイルス感染防止のため、会場が満席となった場合は、入場をお断りいたします。
※会場にお越しになる場合は、マスク着用をお願いします。
※感染拡大の状況により会場での開催を中止とさせていただく可能性がございます。

活動報告会

日時 **2023.1.7 [SAT]**
10:00 → 13:30

会場 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

これまで「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸(1996～2005)」そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアル KOBЕ(2006～2015)」を実践してきました。

2016年からこの先の10年を見据え「KOBЕのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクション KOBЕ」という取り組みを開始しました。阪神・淡路大震災のつらい経験を二度と繰り返したくないという強い思いから、学んだことを次に活かすことができる形でないといけないという取り組みです。大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。その個々の経験を未来へどう活かせるか。世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。今の KOBЕ だからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ、防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために、「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、将来の被災者を減らします。

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所 都市防災計画分野

共催：京都大学防災研究所 自然災害研究協議会近畿地区部会

企画：災害メモリアルアクションKOBЕ企画委員会

後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部/兵庫県立舞子高等学校/兵庫県立大学

プログラム

※敬称略

10:00 開会挨拶

- 災害メモリアルアクションKOBЕ 企画委員会委員長
- 人と防災未来センター 上級研究員
- 京都大学防災研究所 教授 牧 紀男

10:05 活動発表

- 発表：①兵庫県立舞子高等学校
②滋賀県立彦根東高等学校
③TEAM-3A
④国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 開発チーム
⑤国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
⑥神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富セミ
⑦神戸学院大学 クローズアップ社会研究会
⑧関西大学 社会安全学部 奥村研究室
⑨兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムチーム

12:30 パネルディスカッション 「『創る』をシェアすると・・・」

- コーディネーター：国立明石工業高等専門学校 講師 本塚 智貴
人と防災未来センター 研究部 主任研究員 林田 怜菜
グラフィックファシリテーション：大阪防災プロジェクト共同代表 多田 裕亮
山越 香恋
パネリスト：TEAM-3A
国立明石工業高等専門学校D-PRO135°
(明石高専防災団) 開発チーム
国立明石工業高等専門学校D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
神戸学院大学 クローズアップ社会研究会
兵庫県立大学 防災リーダー教育プログラムチーム
以上5団体代表

13:25 講評・閉会挨拶

- 災害メモリアルアクションKOBЕ 企画委員会顧問
- 人と防災未来センター長 河田 恵昭



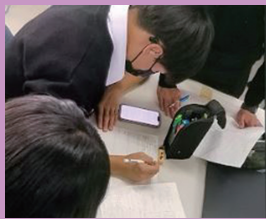
全体テーマ:

KOBÉ のことば

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地域全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。

阪神・淡路大震災から28年、大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などの活動を通じて、次世代に伝えるべき「KOBÉのことば」を紡ぎ、活かし、広げます。「過去・いま・未来」を見据え、世代を超えて活動する、最先端のアクションです。

兵庫県立舞子高等学校



阪神・淡路大震災を経験した学校の先生方から震災当時のまちの様子やその時感じたことを聞き、私たちの言葉で同級生に発信しています。被災者の生の声を未災者が聴く機会を私たちが作り、被災者と未災者をつなぐ架け橋になりたいです。

滋賀県立彦根東高等学校 新聞部



東日本大震災復興支援特集「福島をつなぐ」の連載を始めて11年が経ちました。部員も読者も被災を経験していない者が多い今だからこそこの災害との向き合い方を考えています。今年は水と食の安全を守りながら復興に向かう福島の姿から、湖国・滋賀に住む我々が守るべきものは何か考えました。

チーム トリプルエース TEAM-3A



TEAM-3Aは昨年度まで明石南高校で自主的に地域防災に取り組んでいた生徒が、活動範囲を広げるためにNPO法人「TEAM・あげあげ」のサポートにより今年度設立された学生による自主防災チームです。テーマはこれまでと同じ「いつでも・どこでも・だれでも楽しく「ぼうさい」」

兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムチーム



兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムでは、ぼうさいこくたい2022にあわせて、阪神・淡路大震災を経験した地域住民の方々に協力して頂き、HAT地区の街歩きを実施しました。また、12月には小学校6年生を対象とした防災授業を行いました。これらの活動について報告いたします。

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



地域連携チーム

学校、児童館での防災授業や各種防災イベントへの参加、防災DXシステムの開発などの活動をしています。避難所運営ゲーム「チャレンジ」や防災ボードゲーム「RESQ」の体験、クイズを交えた講義などを通して、防災を楽しく学んでもらうことをコンセプトに活動しています。



開発チーム

防災ゲームの開発や改良、防災クイズの製作を行っています。今年度は、開発を進めていた防災カードゲーム「TRY!」を小学生向けの防災イベントにて初めて実用化しました。高専生ならではのアイデアが詰まった、遊んで学べる防災ゲーム作りを続けています。

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科



安富ゼミ

安富ゼミでは2020年度から各地の避難の実態について調査してきました。今年8月には東日本大震災から11年が経過した岩手県大槌町や、2016年8月の台風10号の被災地・同県岩泉町を訪れ、調査しました。町役場職員や語り部の方々からインタビューを行い、災害情報の重要性について学びました。



クローズアップ社会研究会

私たちは、現代社会学部の学生を中心に、身の回りで起こっている社会問題・時事問題について研究をしています。現在は選挙と防災の関係について、候補者視点、投票者視点の2つから研究しています!! 研究したことは、自分たちで新聞という形でまとめ、発行しています!!

関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災で、大きな精神的ストレスと劣悪な生活環境によって失われる命があるということが初めて広く社会に認知されました。「災害関連死」です。私たちは、その後も繰り返される関連死の発生状況を分析するとともに、当時の教訓は生かされているのかを検証しています。

パネルディスカッションテーマ:

「『創る』をシェアすると・・・」

未災者から未災者へと語り継ぐことを目指す学生たちの活動は「聴く」ことから始まり、新聞、ゲーム、ヒアリングシートなど、様々なカタチの「創る」で表現されている。学びがあるからこそ「創る」ことができる。その「創る」をシェアすることで活動に新たな化学反応が生まれ、拡がりをより勢いづけるのではないだろうか。未災者の「創る」に込められた思いをシェアしよう。